

みくびだより

平成18年6月20日発行
御首神社社務所



御挨拶

謹啓 類つたう風も爽やかな初夏の候、御首の杜の緑も鮮やかに新しい息吹きが感じられるようになりましたが、皆様方には愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

去る二月初旬、秋篠宮妃殿下紀子様にかかれましては、目出度く「御懐妊」の朗報が宮内庁より発表されました。親王両殿下は申し上げるまでもなく、天皇皇后両陛下のお喜びもいかにばかりかとご拝察申し上げます。妃殿下にかかれましては、ご自愛されまして無事ご出産遊ばされますよう、切にお祈りを申し上げます。

伊勢神宮では「第六十二回神宮式年遷宮」が平成二十五年に向けて着々と進められており、四月二十一日には木造始祭が執り行われ、五月六日から一ヶ月間、全国各地から大勢の一日神領民によるお木曳き行事が行われました。

これからの諸行事も恙なく執り行われるものと思われませんが、式年遷宮が広く国民の赤誠あふれる真心によって、古式に則り無事に斎行されますよう切に願ってやみません。

さて、この冬の日本列島は例年にならない豪雪で各地で大きな被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。被害に遭われました方々には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げ、大切な命を亡くされた人々には衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

尚、本年は御首神社崇敬会が発足して二十年目を迎えることになりました。そこで記念事業といたしまして、先に述べました伊勢神宮のお木曳き行事に参加を致し、悠久の歴史と伝統を肌で感じてまいりました。詳しくは本紙に特集記事を掲載致しましたので、ご覧頂ければ幸いです。

最後になりましたが、皆様方には御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、益々の御健勝とご多幸を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

御首神社崇敬会二十周年記念

伊勢神宮お木曳き行事に参加

伊勢の神宮では二十年に一度、ご正殿を始め諸建物や御装束・御神宝等をすべて新しくお造りし、新宮へお遷りいただくお祭りが執りおこなわれています。

このおまつりは「式年遷宮」と言い、今から千三百年前に天武天皇がお定めになった制度です。以来連綿と絶えることなく受け継がれ、親から子へ、子から孫へと受け継がれ平成二十五年には第六十二回式年遷宮が執り行われますが、それに先立ち木曾のお山から伐り出されて伊勢に運ばれたそのご用材を内宮・外宮に奉曳する「お木曳き行事」が行われます。その参加者は伊勢の市民に限られていましたが、昭和四十八年の第六十回式年遷宮から、全国の崇敬者も「一日神領民」として参加出来るようになりました。

当神社崇敬会も設立二十周年を迎えることになりましたので、絶好の機会と思い、ご参加を募りましたところ、大勢の会員の皆様のご賛同を得まして去る五月二十七日・二十八日にかけて一日神領民として奉仕させて頂き、感動に満ちあふれて無事に帰ってまいりました。

以下は、その感動の数々を写真にまとめましてご紹介をいたします。

お木曳きの無事を祈って行われる浜参宮は参加される人の総てが、一見浦にて前日の午後或いは、当日の朝に潔斎をして心身を清めてお木曳きに参加することになっており、期間中は全国から十万人の人々がお祓いを受けられるそうです。

当神社崇敬会も前日、豪雨にさらされながら大勢の人と一緒に潔斎を受け、心身共に清めていただきました。



お木曳きの無事を祈って



小雨の中を「いざ出発」



ホテルの朝は、しとしと小雨が降り続けています。この調子ではカッパを着てのお木曳きになるものと思いい、朝食をすませて午前七時半、バスに乗り込み出発地点に到着すると、俄かに雲が切れ、ところどころに青空が見え始めたのです。

「しめた！」皆さんの顔が急に明るくなりました。これはまさに神さまのご守護以外のなにものでもありません。

雨も上がり、まもなくお日さまが輝き出したので、そして出発前の結団式を済ませ、午前八時半に外宮近くの宮町を出発したお木曳き車は、世話方の「エンヤヤー・エンヤヤー」のかけ声と共に二本の太く長い曳



会員同士の意気もぴったり

き綱を手にした大勢の人たちが力強く一斉に引くと、六トン余りの車がゆっくりと動きはじめます。すると「ブォーン・ブォーン」とあたりをゆるがすようなワン鳴りの音が町中に響き渡ります。その異様な雰囲気に参加者は圧倒されそうになり、かけ声も自然と大きくなってまいります。

また、采を振つての木遣り音頭が、地元の若い衆によって声も高らかに唄われると、それに続いて皆が一斉に「エンヤヤー・エンヤヤー」とかけ声をかけ、息もぴったり合ってきますとお木曳きはいよいよ佳境にはいつてまいります。

お木曳きの道のりは約一キロです。途中で二カ所曲がり角があり、ここを曲がるのが大変で、お世話の方々が大変苦勞をしておられました。道中で少し休憩をとりながら外宮へ近づくと、今度は大きなかけ声と共に北御門へ一気に引き込まれました。すると、「バンザーイ・バンザーイ」とあちらこちらで声が上がリ、老いも若きも、無事に曳き終わった喜びの歓声で沸き返っていました。



無事に曳き終わったその喜びと感動をしつかりと胸に刻んで、外宮にてお礼の御垣内参拝をさせていただきました。又、記念になるこのお木曳きのハッピー姿で集合写真におさまり、おもてなし会場ではご当地の人々の熱い歓迎を十分に受けることが出来、最高の気分で終わることが出来ました。



みなさんのお声

今回の行事のアンケートの結果、そのご意見を要約して、ご紹介をさせていただきます。

或る男性は、「二十年后には健康状態が不安なので、親子三代で参加しました。」と、或る女性は「滅多にない貴重な体験だから」と言われ、子供さんは「とても面白かった」といってニッコリ笑っていました。

又、その感想を尋ねますと、全員の方が大変よかったというお答を頂きました。

また、今回の企画についてのご意見は、今後もこのような企画があれば是非参加したいと大変嬉しいお答を頂き、誠に有り難うございました。これを参考に致しまして、今後の企画に役立ててゆきたいと思えます。



大声を出したらのどが潤れちゃいました
まずは一杯呑んでから...

おわりに

今回のお木曳き行事は天候不順にもかかわらず、未知の期待に胸をふくらませ、勇気をもってご参加下さった会員のみなさまには厚く御礼を申し上げます。我が国の伝統行事である式年遷宮で、お木曳きの行事に私どもが直接参加出来たことは大いに誇りとするところであり、皆様には生涯の想い出になることと思えますが、それと同時に今回の抱かれた感動を次の世代の人々にも語り伝え、参加頂きたいと思えます。

今後も遷宮の諸行事に参加の機会があるかと思いますが、その節は是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。

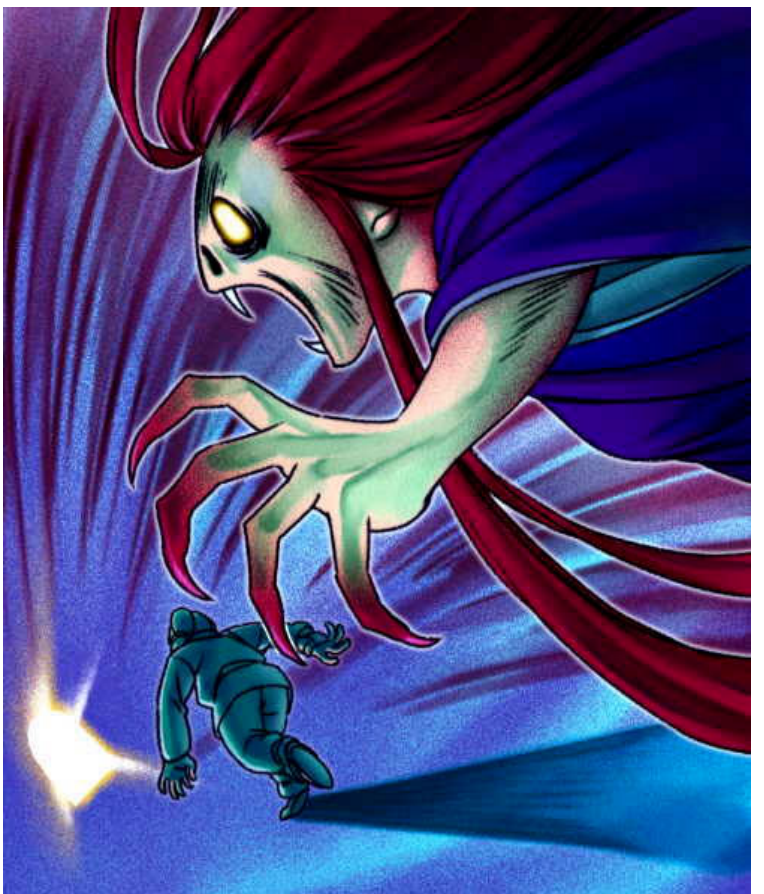
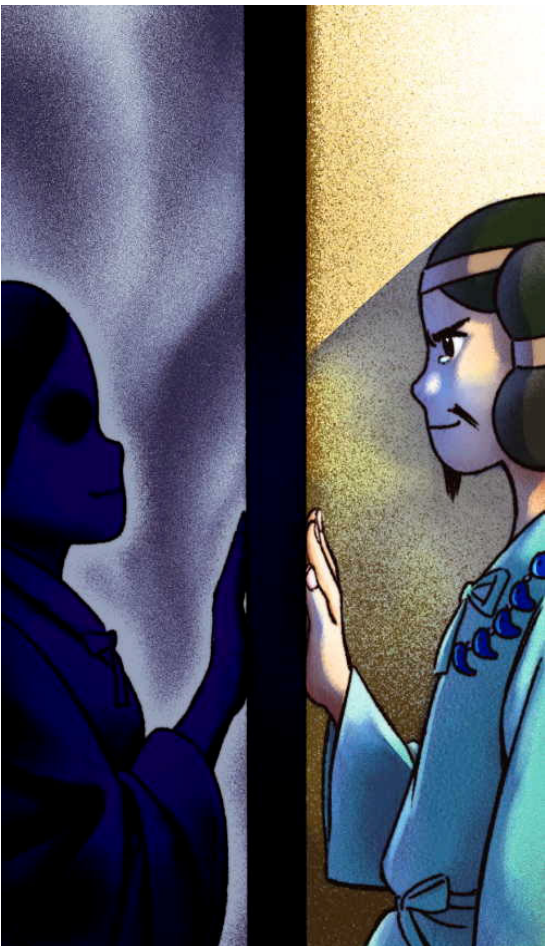


お天気も良かったし、汗びっしょりです
さて...ひと風呂浴びましょうか

黄泉のくに

(古事記より)

伊邪那美命は、大やけどをうつ黄泉国(よみくに)へうつし
 しまいました。伊邪那岐命は悲しみのあまり、ずーっと泣い
 ていました。2人があんなになら、黄泉国へついでに
 2人がついでに。そのお国の入口にいた時、罪の回
 りに伊邪那美命がやってきました「私もあなたを2人へ帰ら
 たいのですが、穢れてしまつて帰れないのですね...2人が
 もといわれれば黄泉国の神さまにお願いをうつすか。
 ども、2人が入る2人への絶対にお願いをうつすか。
 約束を守らせて。」「2人が入る2人への約束を守りました。



ついでに、2人があんなになら、黄泉国へついでに
 「2人があんなになら」2人があんなになら、黄泉国の入口へ
 ました。2人があんなになら、黄泉国の入口へ
 ついでに。そのお国の入口にいた時、罪の回
 りに伊邪那美命がやってきました「私もあなたを2人へ帰ら
 たいのですが、穢れてしまつて帰れないのですね...2人が
 もといわれれば黄泉国の神さまにお願いをうつすか。
 ども、2人が入る2人への絶対にお願いをうつすか。
 約束を守らせて。」「2人が入る2人への約束を守りました。」

言って怒った伊邪那美命は、魔女たちに追いかけてせまじ
 た。魔女たちはとても早いので、今にもつかまりそうにな
 りました。そして伊邪那岐命は、身につけていたツル草を
 投げつけるよ…何よ、そこからソトウの実が成りました。
 魔女たちがブドウを食べている間に、みゆやくにげること
 が出来てホッとひと後みまふり回へ、今度は恐ろしい雷
 神たちが大勢おいがけてきたのです。伊邪那岐命は剣でふ
 り払いながら逃げつづけ、出口まで来たときに桃の木を見
 つけました。その実を「エイッ」と力いっぱい投げつける
 と雷神たちはビックリして逃げこいてしましました。
 最後に伊邪那美命が追いかけてきましたが、伊邪那岐命
 はとてもこわくなり、大きな岩で出口をふさいじしまし
 た地上（この世）に帰ることをできたのです。
 やつこの思いで逃げてきた伊邪那岐命は「まったくひど
 い目にあったものだ、身も心もすっかり穢れてしまった。
 」と言って、阿波岐原という川原で体を洗って『みそぎ』を
 すべるといひました。そして顔をあらった時に天照大御神、
 月読命、須佐之男命といっらっぱな二人の神さまがお生ま

れになりました。

大みろこびの伊邪那岐命は、天照大御神には高天原を
 月読命には夜の国を、須佐之男命には海をそれぞれまこ
 めなさいと命じられました。



◎おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！
 今回の「黄泉のくに」は伊邪那美命の死を嘆いて伊邪那岐命が黄泉の国
 へ訪れるという神話をもとにいたしました。古代の人々が死と生をどのよ
 うに理解していたかを知る事が出来ます。
 私たちにとって神話は単なる物語ではなく、我が国の祖先から受け継が
 れてきた心との出会いの場です。是非お子様やお孫様と一緒にお読み頂
 き、子供たちの情操が少しでも豊かになりましたら幸いです。

御首神社ホームページ

神職への質問FAQ

今回は『御神札・御守り・縁起物』についてご紹介いたします。

問 複数の神社の御守りを一緒に持っていて大丈夫なんでしょうか？

答 よく「〇〇の神様と××の神様は相性が良くない」とか「複数の神社の御守りを受けた場合、神様同士が喧嘩される」などという理由から、何体も御守りを持つと不安になる方が見えますが、神様同士が「相性が悪い」「喧嘩される」などということは決してございません。複数の御守りを受けられる事で、それぞれの御神徳を戴いてご自身を守って下さるでしょう。

問 神社等でお受けした御神札や御守りは何時お返しすれば良いですか？

答 御神札や御守りは基本的に、受けられて一年でお返しします。御神札は、年末の大掃除などに合わせて新しいものと交換されると良いでしょう。

問 初宮参りや七五三参りの御守りはいつ頃お返しすれば良いですか？

答 初宮参りや七五三参りでお受けになる御神札・御守りは、お子様が無事健康であるようにと授与されていますので、他の御神札・御守りと同じく、一年経過すれば返納して頂いて結構です。



問 お正月の初詣の際に、破魔矢と熊手を受けたのですが、どこにお祀りをすれば良いでしょうか？

答 破魔矢・熊手などの縁起物は神棚の近くにお祀りして頂くのが一番良いのですが、それが無理なようでしたら、少し高い位置で清浄な場所（例えば下駄箱の上など）であれば結構です。尚、画鋲などで止めてお祀りされることは避けて下さい。

纏め 今回は御神札・御守りなどについてご紹介いたしました。

御神札や御守りを受けられている時は神様に守って頂いているという気持ち、そして返納される時は守って頂いたことへの感謝の気持ちが大切であります。常にこの気持ちを持ち続けてもらえれば、必ずや御神徳が戴けることでしょう。

崇敬会入会のご案内

御首神社の御神徳に感謝し、当社を崇敬される方はどなたでも入会出来ますので、御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にも受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせていただきます。

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げます。

厄除開運祈禱

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなりまします。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。

御祈禱を受け毎日を平穩に過ごしましょう。

平成18年厄年に当たる生れ年				
	前厄	本厄	後厄	
男子	42歳 昭和 41年	昭和 40年	昭和 39年	
	25歳 昭和 58年	昭和 57年	昭和 56年	
女子	33歳 昭和 50年	昭和 49年	昭和 48年	
	19歳 平成 元年	昭和 63年	昭和 62年	

玉串について

神社では、お祭りの終盤にご神前に玉串を奉る儀式がありますが、これは幣帛の一種で榊の小枝に木綿又は麻緒や紙垂を付けてご神前に捧げるもので、栄木・賢木・坂木とも書き、ご神前へのお供えとして用います。

榊の起源は古く「古事記」に天照大神が天岩戸にお隠れになった時に「天香具山の五百津真賢木を根こじにこじて玉・鏡・白和幣・青和幣を取り垂でて」とあるように、榊をご神前に奉ったり、装飾として用いたりすることは神代の昔からの風習と考えられます。

玉串の語義は、国学者の賀茂真淵によれば「玉をつけたる串の意なり」とも言い、本居宣長によれば「手向け串の意なり」とも又、六人部是香は「御霊の宿りたまう串なり」とも言われています。

一般神社での玉串は榊（寒冷地では常緑樹）の枝に紙垂や麻を付けたものを用い、正式参拝又、お宮参りや七五三などのご祈祷を受けられる場合も、玉串を捧げて二拝二拍手一拝の作法で参拝を致します。

当神社でご祈祷を受けられる時、最後に奉って頂く金幣串は玉串の替わりになるものであり、参拝者の切なる願いを籠めてお名前を書いてもらっております。

尚、玉串の奉り方はイラストで下記にてご説明をいたします。

玉串の奉り方



左手を下げ両手で玉串の根元を持ち、祈りを込めます。



神職から渡される玉串の根元を右手で上から持ち、左手で中央を下からそえます。



さらに玉串を時計回りに回して、根元を神前の方に向けます。



玉串を胸の高さに捧げ持ち、案と呼ばれる机の前に進み一礼します。



玉串をそのまま、案の上に置きます。



玉串を時計回りに九十度回し、縦に持ちます。

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日午後三時

▼元旦祭

一月 一日午前零時

▼左義長

一月十五日午前十時

前年に各ご家庭でお祀りされた御神札や、肌身御守り、また正月に各家庭で飾られた注連飾り等を忌み火にてお焚き上げし、大勢の参拝者が手を合わせておられました。

▼浄火祭

二月 三日午前十時

今年も天候にも恵まれ、朝から多数の参拝者が見守る中で厳肅に斎行されました。

当日は、皆様が奉納されました金幣串を始め紅白串・祈願絵馬・祈願帽子を厄男が真心を込めて祈念し、忌火で以ってお焚き上げを致しました。



▼祈年祭

二月十九日午後三時

▼御鍬神社例祭

三月十七日午後三時

▼例大祭

四月 二日午後三時

当日はあいにくの雨模様でありましたが、氏子崇敬者多数参列の下、例大祭を厳かに斎行いたしました。



又、境内特設舞台では、演芸の他に子供達による打ち囃子の奉納が行われ、練習の成果を存分に披露してくれました。

▼南宮神社例祭

五月 四日午後三時

▼お田植え祭

六月 六日午後三時

▼農休み祭

六月十八日午後三時

祭事案内

▼西宮神社例祭（相殿）

七月十七日午後三時

▼末廣稻荷神社例祭

八月 六日午後三時

▼夏越大祓

八月六日午後三時半

この神事は半年間の生活の中で、本人が自覚することなく心と身体に付いてしまう罪穢・災厄を祓い清め、この夏を健康で元気に暮らせるように祈願するものであります。

▼長寿祈願祭

九月十五日午後四時

▼神明神社例祭

十月十七日午後三時

▼七五三参り

十一月一日～三十日

七五三参りは、日本古来の風習で三歳・五歳・七歳と子供の成長過程に節目をつけ、大神様に子供の無事成長をを報告して感謝申し上げ、今後より一層の御守護を願う人生儀礼であります。



▼崇敬会大祭

十一月 三日午後二時

▼新嘗祭

十一月二十三日午後三時

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp
Eメール syanusyo@mikubi.or.jp